2023 2.13 vol.1026

# JA全農ウィークリー WEEKLY

2面

## 若者の夢を千葉米で応援
### 体操・橋本選手をアンバサダーに起用（千葉県本部）

4-5面

食と農を未来へつなぐ（2）担当理事インタビュー

耕種生産事業担当常務 冨田健司

ダボス会議ジャパン・ナイトでのすし職人によるパフォーマンス（2面）

昭和女子大学の学生による三浦半島産野菜の配布イベント（3面）

「ユメトコメキャンペーン」の受賞者（前列）と（後列左から）荒井隆県本部長、体操の橋本大輝選手、林茂壽運営委員会会長、河野克己副本部長（2面）


2 ダボス会議ジャパン・ナイトに食材提供（輸出対策部）

3 倉庫管理サービスで衛生管理の向上へ（米穀部）

学生考案の三浦半島産メニューを販売（神奈川県本部）

6 プロフェショナルを追う(11) JA全農総合エネルギー部電力課 村上洋輔さん（広報・調査部）

7 JAズームイン（JA岡山）

8 料理インフルエンサーが産地訪ね発信（園芸部）

BSフジ「ごちそうさまのカタチ」放送100回（広報・調査部）

JAタウンショップ紹介 クミショクファーム


Web版JA全農ウィークリーはこちらから ▶▶▶▶▶▶▶

https://www.zennoh-weekly.jp/

Web限定

飛騨牛 地理的表示（GI）登録（岐阜県本部）

「ちいかわ飯店ドリンクスタンド」をみのりカフェ福岡パルコ店で開催（フードマーケット事業部）

News!

# 若者の夢を千葉米で応援

## 体操・橋本選手をアンバサダーに起用

千葉県本部

千葉県本部は1月14日、千葉県農業会館で「ユメトコメキャンペーン」の贈呈式を開き、体操の橋本大輝選手（成田市出身）が受賞者に目録を手渡しました。

2021年に大きな夢を達成した体操の橋本選手が公式アンバサダーを務めるこのキャンペーンは、県内の若者の夢を県産米で応援し、米の消費拡大と生産者の応援につなげるために実施しました。22年9月20日から11月30日までの期間、県内に在学・在住している22歳未満を対象として「叶（かな）えたい『夢』」を募集し、678人の「夢」が寄せられました。

厳正な抽選の結果、金賞の5人に新米「粒すけ」1俵（60キロ）、銀賞の70人に同米10キロをプレゼントしました。

贈呈式には、金賞受賞者のうち4人が参加し、壇上で「小説家になりたい」「オリンピックで金メダルをとりたい」など、自身の「夢」を表明しました。受賞者に目録を手渡した橋本選手は、「僕もオリンピックをとおして夢を届けたいと改めて感じました。皆さんも、自身の『夢』に向けて頑張ってください」と、激励の言葉を贈りました。

受賞者（前列）と（後列左から）荒井隆県本部長、橋本選手、林茂壽運営委員会会長、河野克己副本部長

News!

# ダボス会議ジャパン・ナイトに食材提供

## 世界の政財界のリーダーが日本産・日本食に舌鼓

輸出対策部

全農はダボス会議のサイドイベントとして1月18日にスイスで開催された「ジャパン・ナイト2023」へ日本産食材を提供し、世界のVIPに対し日本産農畜産物と日本食をPRしました。

世界の政財界のリーダーが集まる世界経済フォーラムの年次総会、通称「ダボス会議」が1月16～20日にスイス・ダボスで開かれました。会議に合わせて日本の魅力を知ってもらおうと日本企業23社による団体が1月18日、「ジャパン・ナイト」と呼ばれるイベントを開きました。

イベントでは日本の食文化をアピールしようとすき焼きや日本酒などが振る舞われ、ステージ上ではすし職人によるパフォーマンスが披露されました。全農は、すき焼き用の和牛とすし用の米を提供しました。

ダボス会議は世界各国から著名な経営者や政治家、学識者が集う貴重な機会であり、約300人の出席者に日本産の食材と日本食をアピールしたことで、輸出とインバウンドのさらなる拡大につながることを期待しています。

イベントで提供した和牛のすき焼き

すし職人によるパフォーマンス

News!

# 倉庫管理サービスで衛生管理の向上へ

## 専門家の診断を基に改善を提案、担当者研修会も

米穀部

全農は農業倉庫における品質管理の徹底や業務の効率化を図るため、農業倉庫管理サービス「楽々日誌パナミエール」の導入を推進しています。導入JAに対しては専門家による農業倉庫の定期点検と併せて、JAの担当者を対象に衛生管理研修会を開催しています。

「楽々日誌パナミエール」は農業倉庫に無線装置を付けた温湿度計・穀温計を設置し、パソコンやスマートフォンにより、リアルタイムで庫内の状況が確認できるサービスです。取得データにより保管管理日誌が自動作成でき、このデータなども利用して専門家の定期点検、担当者研修会を実施しています。

2022年12月、同サービスを導入している栃木県のJAうつのみやで、専門家による定期点検と衛生管理研修会を開き、倉庫ごとに実態に則した改善提案を行いました。

JA担当者からは、害虫やネズミ対策などの質問があり、「衛生管理のプロの目で現場の農業倉庫を見てもらい、具体的な改善策を示してもらうことで衛生管理の向上に大変役に立つ」との感想も出されました。全農では今後も全国のJAへの導入推進に取り組み、農業倉庫業務をサポートしていきます。

研修を受けるJAうつのみやの農業倉庫担当者

News!

# 学生考案の三浦半島産メニューを販売

## 昭和女子大学・全農・JAが野菜消費拡大プロジェクト

神奈川県本部

神奈川県本部は三浦市農協、JAよこすか葉山、昭和女子大学と連携し、同大学の学生が考案した三浦半島産青首ダイコン・早春キャベツを使用したメニューを1月18～31日、東京都の玉川髙島屋S・C内「フーズシティ」で販売しました。

この催しの本プロジェクトである「昭和女子大学 JA☆ベジラボプロジェクト」は、栄養士や管理栄養士を目指す学生が野菜や農業の知識を深めながらレシピを考案し、三浦半島産野菜のプロモーション・消費喚起を目指すことを目的に実施しています。

18人の学生が本プロジェクトに参画し、産地情勢の勉強や店舗との意見交換、試作を重ね、約半年間レシピの考案・改良に取り組んできました。2022年12月に行った最終プレゼンテーションの結果、選ばれた4作が今回販売されました。

参加した学生は「授業で関わるうちに生産・販売する側に立ったような気持ちになれました。三浦半島産野菜ファンのお客さまもいて、うれしかったです」と話しました。

期間中に学生による三浦半島産野菜の配布イベントも

販売された学生考案メニュー

# 「食と農をつなぐ」―2

## 全農事業担当理事インタビュー

### 耕種生産事業担当常務　冨田健司

耕種総合対策・耕種資材事業・施設農住事業を担当する冨田健司常務理事に令和4年度の振り返りと5年度に向けての戦略について聞きました。

【広報・調査部】

**――令和4年度を振り返り、どのような一年でしたか。**

中期計画の計画策定時の想定を超える厳しい情勢下での事業となりました。これまでにない肥料原料や飼料穀物など農業関連資源の高騰や調達不安が続く中、生産者の営農に支障をきたさないよう、肥料原料の確保と土壌診断に基づく減肥提案や堆肥の活用など生産コスト低減に懸命に取り組んできました。

しかしながら、生産者やJAグループの自助努力を超えるような状況であったため、なんとか生産者の負担を軽くしようと国に対し肥料の価格高騰対策などの支援を求めてきました。

**――今後の動向についてどのように見通していますか。**

現在は、急騰していた肥料原料の国際市況は下落傾向、また為替相場も一時期に比べれば円高方向に転じていますが、まだまだ予断を許さない状況であるとみています。今後も値上がり前の価格水準までの改善はないだろうとみて引き続き備える必要があると考えています。

**――政府の食料安全保障の動きについてどのように捉えていますか。**

昨年末に政府は「過度な輸入依存からの脱却に向けた構造転換」への対策を講じることを発表しました。生産資材関連では、堆肥などの利用拡大や広域流通、輸入肥料原料の備蓄などによる肥料の国産化や安定供給の確保、生産現場では水田の畑地化による麦・大豆などの本作化などが掲げられています。この施策にスマート農業化、農産物の輸出促進、農業のグリーン化の3点を加え、展開することとしています。これは全農の重点施策とも合致しており、米穀・農産・園芸などの耕種事業部門と連携し、総力を挙げて現場展開をすすめていかなければなりません。

**――5年度はどのようなことに力点に置いて取り組む考えですか。**

中期計画で掲げた「持続可能な農業と食の提供のために〝なくてはならない全農〟であり続ける」ため、農業生産基盤の維持・拡大に向け、国内肥料資源の活用、スマート農業技術による生産性向上など、環境負荷を軽減し、かつトータルコスト低減などによって農業経営に貢献できる技術・資材の普及に取り組みます。

**――幅広い取り組みになると思いますが、その中で特に力を入れる取り組みは？**

#### 担い手アプローチ活動による接点強化

生産現場における労働力不足など厳しい状況下で、懸命に農業を営む生産者に寄り添い、生産意欲・生産力が落ちないよう取り組みをすすめていきます。

現在JA担当者と共に、「担い手アプローチ活動」による生産提案活動を展開していますが、その3年目にあたる今年度は全国各ブロックに「TAC・生産対策課」を新設し、活動事例も75件と大幅に拡大しました。引き続き、実践事例をJAグループ全体で共有し、担い手の困り事を

解決する提案活動を通じた接点強化を図り、結果としての担い手のJA利用拡大にもつながるように取り組みます。

## 「Z－GIS」や「ザルビオ」とスマート農機の連携

営農管理システム「Z－GIS」の会員による圃場（ほじょう）登録数は100万圃場を超え、栽培支援システム「ザルビオ」の会員はこの1年間で前年の5倍に拡大するなど、担い手の助けとなるツールとして普及がすすんでいます。

Z-GISで共同防除の圃場を確認するJA職員

そこで4年度は、スマート農機との連携による可変施肥・可変防除（必要な部分だけに適量の施肥や農薬散布をする機能）ができるよう連携をすすめてきました。5年度も両ツールの普及拡大と農業機械とのデータ連携により、生産性の向上に取り組みます。また、担い手とJAがデータを共有し、スマート農業技術の活用によるJAの営農指導の効率化もすすめます。

## 「グリーンメニュー」の提案・実践

近年、環境問題への世界的な関心が高まり、国が「みどりの食料システム戦略」をすすめるなど、環境調和型農業への具体的な取り組みが求められています。全農は生産現場で実践する環境調和型農業の技術・資材を体系化した「グリーンメニュー」を作成しました。グリーンメニューは、①土壌診断に基づく施肥量の抑制②IPM総合防除などによる化学農薬だけに頼らない防除③堆肥など国内肥料資源の活用など複数メニューを総合的に実践します。5年度はモデルJAで実践、導入効果を検証し、順次全国のJAで水平展開・全国普及に取り組みます。

## 肥料の国産化と輸入原料の安定確保

国際的な肥料原料の高騰と、競争激化による調達不安が続く中、輸入依存度の高いわが国では国産肥料への切り替えが急務となっています。肥料資源の地域循環と広域流通に向け、地域の肥料資源はJA域で循環・リサイクル、県域では県内堆肥活用、全国段階では堆肥入り混合肥料をBB工場や肥料メーカーと連携した製品開発・普及をすすめます。

併せて、輸入肥料原料については、引き続き調達先の多元化による安定確保・調達と、国内における備蓄強化などにより、営農に支障をきたさぬよう安定供給に努めます。

輸入肥料原料の安定確保のための調達先の多元化も重点

**――取り組むべき課題が大きく、生産現場での定着に向けては中長期的に取り組むことが必要だと理解しました。最後に全農としての中長期の戦略について聞かせてください。**

## 生産者に寄り添いベストな支援を！

生産者の営農・経営・くらしは厳しさを増しており、JAと共に全農自らもっと生産現場に足を運び、今お話ししたような取り組みをしっかり実践することに尽きます。

JAグループが一丸となって、すべてのベクトルを地域農業の担い手に向け、担い手の営農データなどを基に、課題解決や生産提案を行う「生産者に視点をおいたビジネスモデル」への転換をすすめていく考えです。生産者に寄り添い「JAと本会が情報を共有し、一体となって生産者にベストな支援」を実践していきます。

フルバージョンはwebサイトへ

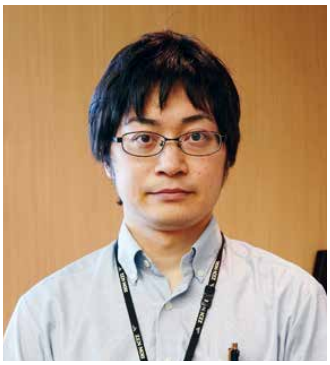
プロフェッショナルを追う(11)

JA全農総合エネルギー部電力課　村上洋輔（むらかみ ようすけ）さん

# 「JAでんき」をエネルギー事業の柱に研修会や広報活動も

全農グループには専門的な事業に従事している職員がいます。今回はJA全農総合エネルギー部電力課の村上洋輔さんに迫ります。

【広報・調査部】



推進用の販促資材も用意

**――仕事内容について教えてください。**

中国・四国エリアの推進担当として、JAやJA子会社への「JAでんき」導入推進、「JAでんき」を扱うJAなど（代理事業者）に向けた研修会の実施、推進用販促資材の提供など、組合員への推進や「JAでんき」の利用に関するサポート業務が主な仕事です。研修会は、利用申し込みからシステムの使い方まで一連の作業を学ぶ基本的なものや、組合員の利用が増えているJAなどの事例を共有して推進につなげるものなど、ケースに応じて実施しています。

**――「JAでんき」とは？**

2016年の電力小売自由化を受け、組合員やJA施設のエネルギーコスト削減に貢献するため、全農は電力事業に参入し、18年からJA組合員の家庭向けに「JAでんき」の供給を始めました。小売電気事業者である全農エネルギー㈱が、既存の送配電網を利用して電気を供給しています。大手電力会社と比べ、「JAでんき」は比較的安価な料金体系で使用できるのが特長です。現在、約120のJAが「JAでんき」を取り扱い、組合員へ推進しています。

これまでJAグループは「クミアイプロパン」としてLPガスを供給するガス事業と、組合員へガソリンや暖房用灯油、営農用A重油などの燃料油を供給する石油事業を展開してきました。今後、環境保全の観点などから化石燃料が使いづらくなったり、オール電化住宅の普及などでガスや灯油を使用しない人が増えたりし、さらに電気の需要が増すと言われています。ガス、石油に次ぐエネルギー源として電気も扱うことで、JAの総合エネルギー事業として組合員のさまざまなニーズに対応できると考えています。

**――心がけていることは？**

まだ新しい事業ということもあり、契約内容の変更や電気の申し込みに関する基本的なことも含め、JAなどの代理事業者には利用する組合員からいろいろな問い合わせがあります。実際に組合員と接するのはJAなどの担当者になるので、担当者から相談があった際はすぐに対応するようにしています。

代理事業者のJAとの意見交換で概要を説明する村上さん（中央）

**――今後、取り組みたいことは？**

新たに「JAでんき」を取り扱うJAを増やしていきたいです。「JAでんき」を知らない人も多いので、まずは興味を持ってもらえるよう、広報活動に力を入れたいと考えています。総合エネルギー事業の一つとして「JAでんき」を取り入れてもらうことで、組合員の営農や生活にかかるコストの削減に貢献できればと思っています。

JAズームイン

# 稲作安定へGIS地図システム「1日農業バイト」で労働力確保

## JA岡山（岡山県）

| 概要 | 2022年3月31日現在 |
|---|---|
| 正組合員数 | 2万6283人 |
| 准組合員数 | 2万7337人 |
| 職員数 | 949人 |
| 販売品取扱高 | 98億8千万円 |
| 購買品取扱高 | 38億4千万円 |
| 貯金残高 | 5599億4千万円 |
| 長期共済保有高 | 1兆2496億1千万円 |
| 主な農産物 | 米麦、桃、ブドウ、千両なす、黄ニラ、梨 |

JA岡山は岡山県南部に位置し、瀬戸内海沿いの温暖な気候を生かした、多種多彩な農作物の生産が行われています。中でも、白桃をはじめブドウのマスカット、ピオーネなどの果物は全国でも有数の産地です。

リモートセンシングを行うJA職員

JA事業では、地域営農振興の指針として策定した「JA岡山営農振興計画～農家のために！地域のために！未来へつなぐ地域農業の実現をめざして！～（2022～24年度）」に基づき、農畜産物の生産振興、販売戦略の強化と販売体制づくり、営農指導体制の充実に取り組んでいます。

農地データが項目ごとに色分けができ、必要なデータが瞬時に分かる

### センシング技術も活用 農地情報を「見える化」

JAでは、GIS地図システムとセンシング技術活用による安定多収技術の確立と普及拡大に取り組んでいます。GIS地図システムは、水田の作付け状況や農作業の進捗（しんちょく）など営農に必要な情報を一括管理できるシステムです。管内4市町の農地情報を電子地図上に「見える化」することで、管理業務や農作業の効率化につなげています。

圃場（ほじょう）ごとの作業実績や、農薬の種類、施肥量などを入力することで、「いつどこで、何を育て、どんな作業をしたか」を確認することができます。

ドローンによるリモートセンシング（遠隔観測）も導入しており、水稲の出穂時期にドローンを飛ばして葉色解析で生育状況の空撮映像をサーバーに蓄積しています。生産者は画像を基に生育がいまひとつの箇所に絞って施肥することで、肥料使用量を低減できます。

現在は試用運転中ですが、利用者の意見を反映し、来年度以降正式なサービスを開始します。

### 農業用求人アプリで幅広い世代から応募

労働力確保のツールとして、農業用求人アプリ「daywork」の利用を生産者に提案しています。同アプリの「1日農業バイト」は、スマートフォンなどで簡単に登録でき、1日単位で農業アルバイトの募集・応募が可能です。会員登録をした人がやりたい仕事を選び、生産者が受け入れる仕組みで、学生や休日を有効活用したい社会人など幅広い世代から利用されています。

今後は管内全域の生産者に登録していただき、農繁期の労力軽減や面積拡大につなげていくための新しい手段として活用されることを期待しています。

サニーレタスの植え付けを行う「daywork」利用者

工藤阿須加が行く 農業始めちゃいました STARTED FARMING
JA全農提供　BS朝日（BS5チャンネル）
俳優工藤阿須加さんが農家へ転身した様々な人の"就農のリアル"に迫ります！
毎週水曜22:00～22:30放送

# 料理インフルエンサーが産地訪ね発信

## 国産青果物の応援企画、第1弾はブロッコリー

全農は料理インフルエンサーが野菜産地を訪ねて取材し、特産品目を使ったレシピとともに生産者の思いを自身のSNS（交流サイト）などで発信してもらう企画に取り組みました。【園芸部】

料理インフルエンサーお薦めの
ブロッコリーのカレーマヨソース

ブロッコリー生産者（右）と料理インフルエンサー

生産資材の高騰などで農業経営が厳しい状況に置かれる中、少しでも国産青果物の需要を拡大するため、料理インフルエンサーを起用し、生産者を取材して作成した記事をブログなどSNSで発信してもらう企画です。

第1弾として、JAふくしま未来のブロッコリー生産者を訪問し、農業のやりがいや営農を続ける上での課題、お薦めの食べ方などを語ってもらったほか、収穫や出荷作業の様子などを撮影。インフルエンサーのオリジナルレシピとともにブログなどで公開してもらい、「ブロッコリーがおいしそう」「たくさん食べて応援したい」などのコメントが寄せられました。

第2弾は栃木のトマトを予定しており、今後、産地や品目を拡大しコンテンツの拡充を図っていきます。

ブログはこちら

# BSフジ「ごちそうさまのカタチ」放送100回

## 頑張る子どもたちを地元の特産品で応援

全農が提供するテレビ番組「ごちそうさまのカタチ」が放送100回を迎えます。100回目の放送では、福岡県在住のカラーガードを頑張る女の子が登場し、「みのりカフェ アミュプラザ博多店」で県産品を使った料理を食べてもらいます。【広報・調査部】

料理を味わう女の子と家族

この番組の主人公は、全国各地でスポーツや芸術などを頑張る子どもたちです。地元の特産品を使い地元レストランのシェフが作った料理で、子どもたちを応援します。

3月1日（水）放送の記念すべき第100回では、福岡県でカラーガードに励んでいる女の子が登場。カラーガードとは、音楽に合わせて踊りながら旗などを頭上に投げたり回転させたりして、その技術力や表現力、チームの統一感を競う競技です。

女の子には家族と一緒に福岡市博多区にある「みのりカフェ アミュプラザ博多店」で福岡県産の「はかた地鶏」を使った特製のチキン南蛮を食べてもらったほか、デザートには「博多あまおうのモンブランパフェ」も登場。放送をお楽しみに。

番組HPはこちら

JA全農の産地直送通販サイト

# JAタウン ショップ紹介

## クミショクファーム

専用の貯蔵庫で熟成させた高糖度の鹿児島産「べにはるか」を使用した干し芋です。製造には、「べにはるか」の色や香り、なめらかな口当たりを保持することができる真空乾燥システムが導入されています。

乾燥むらがないため、仕上がった干し芋は美しい黄金色。独特のねっとりとした食感と上品な甘さ、手で切れるほどの柔らかさを実現しました。そのままでももちろん、温めてもおいしく召し上がれます。

紅はるかの干し芋「熟し芋」4袋……
3150円（税込み）

▶ JAタウンはこちらから https://www.ja-town.com
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

ご注文はこちらから

発行／全国農業協同組合連合会　2023年（令和5年）2月13日発行（毎週月曜日発行）
第3422号　編集・発行人／広報・調査部　新妻成一
〒100－6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号JAビル　TEL03（6271）8055

『JA全農トピックス』のツイッターはこちらから

私たち全農グループは、生産者と消費者を　安心で結ぶ懸け橋になります。